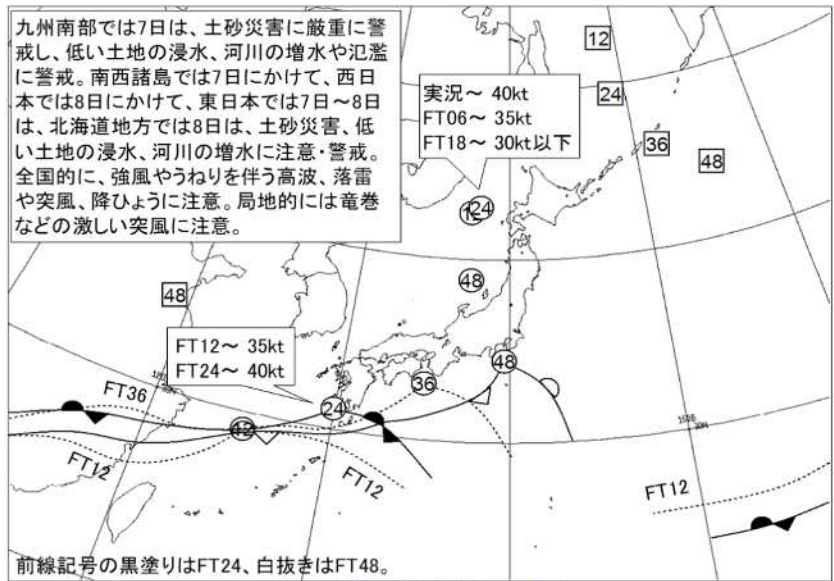


### 1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820m付近の強風軸に対応する前線が華南～南西諸島～日本の南にのびており、前線上の東シナ海を低気圧が東北東進。先島諸島近海にあった熱帯低気圧は不明瞭化した。熱帯起源の下層暖湿気が前線や低気圧に向かって流れ込み、南西諸島周辺では雷を伴う激しい雨や非常に激しい雨を解析、強い風を観測。
- ② 500hPa 5640m付近で-18℃以下の寒気を伴うトラフに対応する低気圧が、日本海中部をゆっくり東進。北日本付近は気圧の谷で、雨を観測。また、低気圧や気圧の谷とオホーツク海の高気圧との間で気圧の傾きが大きく、北日本ではやや強い風や強い風を観測。



主要じょう乱解説図

- ③ 日本のはるか東の低気圧と②の高気圧との間の吹走距離の長い東風の影響で、北～東日本太平洋側ではうねりを伴い高い波を観測。②の影響も加わり、北日本ではしけの所もある。

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、7日は九州南部を通過して、8日にかけて本州の南岸を東北東進。8日夜には、低気圧は日本の東に進んで、前線が日本の南や南西諸島を通過して華南にのびる。前線と低気圧に向かう熱帯起源の下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。九州南部では7日未明～昼前は、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性がある。また、低気圧や前線の影響で、強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。九州南部では7日は、土砂災害に嚴重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。南西諸島では7日にかけて、西では8日にかけて、東日本では7日～8日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。強風や高波、落雷、突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 1項②の低気圧と気圧の谷は、上層トラフが先行し、7日は次第に不明瞭化する。また、8日は、500hPa 5580m以下の寒冷渦が中国東北区から日本海に進み、対応する低気圧が日本海中部に発生して北海道の西に進む。上空寒気と低気圧に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴う激しい雨が降り大雨となる所がある。また、低気圧の影響で、強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。北海道地方では8日は、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。北日本では8日にかけて、土砂災害、強風や高波、落雷、突風、降ひょうに注意。
- ③ 1項③のうねりの影響で、波が高くなりしける所がある。北～東日本では7日にかけて、高波に注意。

### 3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考とする。

2項①②の低気圧の位置や発達程度は不確実性がある。

### 4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時から24時間)：四国300、九州南部250、九州北部・奄美200、東海・近畿・沖縄100mm。 ② 波浪(明日まで)：全国的に4～3m。

### 5. 全般気象解説情報発表の有無

「全般気象解説情報(大雨・落雷・突風)」を17時頃発表予定。